

いま風
金曜日

子どもの時から山が好きだった。晴れた時は雄大な風景で魅了し、荒れた時は無慈悲に雨風をたたき付ける。刻々と変わる自然環境の中、一歩一歩高みを目指す時、生きている実感をかみしめる。

本格的に登山にのめり込んだ麻布中学校の山岳部時代、1冊の本に出合った。登山家・松濤明氏の言葉を記した登山記『風雪のビバーク』(1961年発行)だ。松濤氏の死後に見つけた手記や過去の登山記録、知人の思い出などを登山仲間が出版した。

松濤氏は戦後の混乱期で物資も困窮する中で積雪期の槍ヶ岳に挑み、49年に遭難死した。死の直前に書き残した「死ガイハ水ニトケ、ヤガテ海ニ入り、魚ヲ肥ヤシ、又人ノ身体ヲ作ル個人ハカリノ姿 グルグルマワル」という言葉が心に深く響いた。

言葉のアルバム

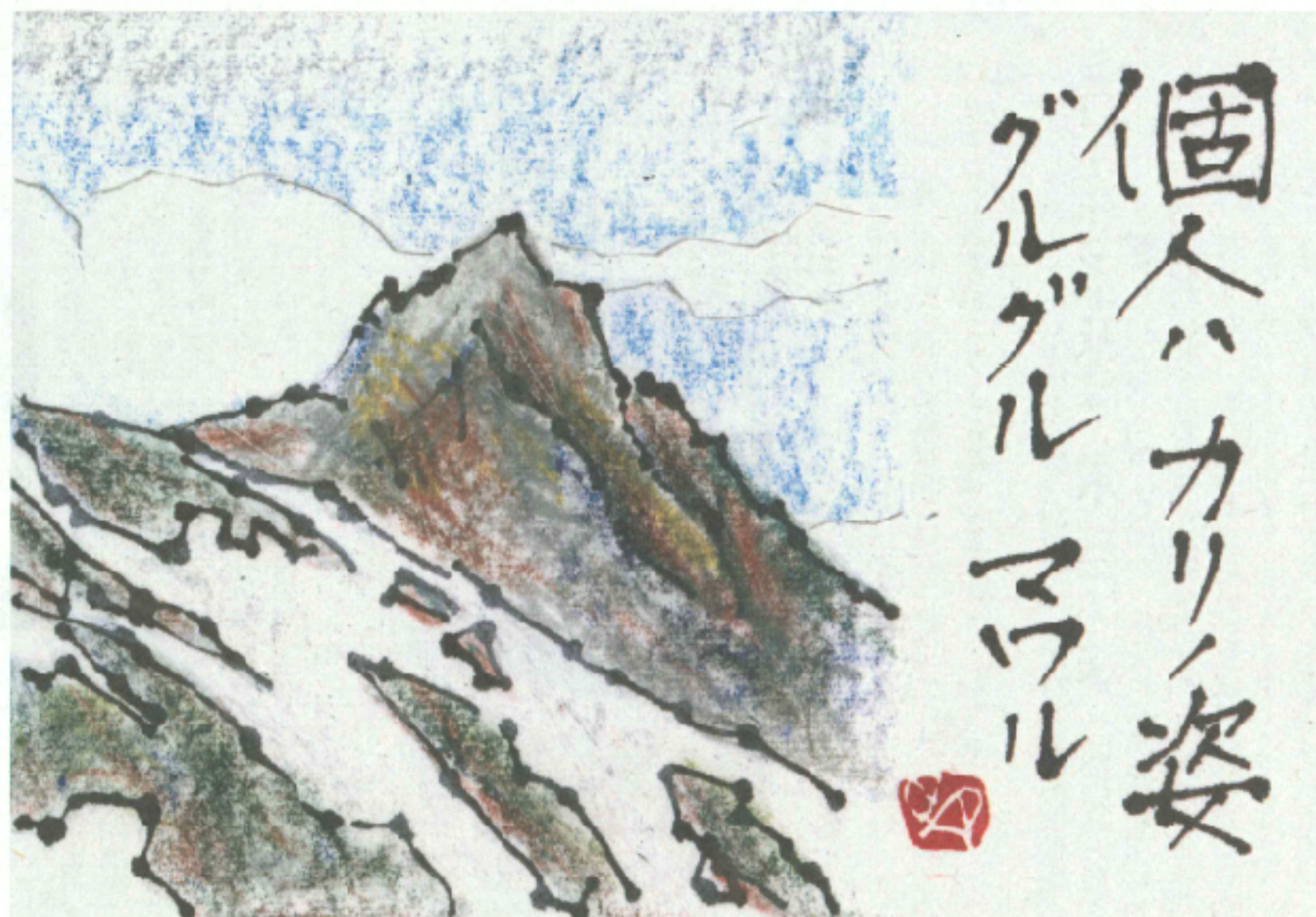
たにがき・さだかず 1945年、東京都生まれ。東京大学法学部卒業後、82年に弁護士登録。83年8月、衆院議員だった父・専一氏の死去に伴う補選で初当選。科学技術庁長官、国家公安委員長、財務相、国土交通相などを歴任し、2009年9月に自民党の第24代総裁に就任した。日本山岳ガイド協会会長も務める。趣味は白転車のロードレース。



撮影・高橋美帆

谷垣 禎一 さん
自民党総裁

出合いは別れのはじまり



画・福間明子

た。「あまり我を張るな」ということ。『俺がやったんだ』というのはやめよう。しよせん、個人は仮の姿でしかないんだか

ら 東大山岳部時代にも同じ本を読み返した。その後も司法試験合格、弁護士から国会議員への転身という節目節目に、この言

葉が浮かんできた。政界では、自民党の名門派閥・安池会で早くから「プリンス」と目された。順調だった議員生活に波乱が生じたのは2000

年。森政権打倒を目指した同国会長の加藤紘一・元幹事長による「加藤の乱」だった。野党提出の内閣不信任決議案に単身同調しようとする加藤氏を、「あなたが大将なんだから」と涙ながらに引き留めた場面がテレビで繰り返し流れた。

ひ弱なイメージがけん伝されることになったが、「皆で撤退を決めたのに大将が一人でいく必要はない」と思った。その後悔はない。山を登るように、歯を食いしばって少しずつ信頼を回復し、財務相、党政調会長の要職を経て党総裁となった。今は、辞任表明後も居座った菅首相の政権の導引に力を尽くす。

首相が辞任を表明し、菅内閣不信任決議案が国会で否決された6月2日。闘病中だった妻の佳子さんの容体が急変した。10日余り後に最愛のパートナーをついに失い、松濤氏の言葉を改めてかみ締めた。

「会者定離。出会うことは別れのはじまりだ、と思わないと仕方がない」

佳子さんは生前、「民主党が情けないのは、野党が情けないからだ」と夫に繰り返し発破をかけていた。

「あの世から活を入れられたらたまらない。頑張りたい」

首相の重責を自ら拒む覚悟がなければ、政権は取り戻せない。亡き妻の言葉を胸に、今日も政界の頂に挑む。

(政治部 久保庭総一郎)